

# 「生命のがん教育」を実施しました

(令和6年1学期分)

令和6年1学期は13校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

## ◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20分)
- (2) がん経験者のお話 (20分)

## ◆授業風景



(西大路小学校)



(桃映中学校)

## ◎小学校 (6校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
6月3日	京都市立養正小学校	6	京都府立医科大学大学院 医学系研究科教授 武藤 倫弘
6月11日	京都市立西大路小学校	6	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 森田 理美
7月9日	京都市立西野小学校	6	京都大学医学部附属病院 血液内科特定病院助教 渡邊 瑞希
7月10日	京都市立大塚小学校	6	京都第一赤十字病院 がん放射線療法看護認定看護師 桐谷 眞澄
7月11日	与謝野町立三河内小学校	6	京都府立医科大学附属北部医療センター 外科医長 内藤 慶
7月17日	一燈園小学校	6	武田総合病院 副院長 賤間 正純

### <児童の感想>

- ◇ 私は、がんは誰にでもなる可能性があるかと知れました。「嫌だ!! たばこ」をしたいです。今後がん検診を受けられる人になりたいです。
- ◇ がんは2人に1人なることらしいので、がんの検診が受けられる年齢になったら受けてみようと思いました。お母さんお父さんにたばこをやっているなら今すぐやめてもらって、一度がん検診をしてと言って、これからは定期的ながん検診をしてがんに少しでもならないようにしてもらい、知り合いの人たちにもがんにならないように伝えていきたいです。
- ◇ がんは予防できないものだと思っていました。でも今日聞いて、規則正しい生活をするると100%ではないけれど、予防できることがよく分かりました。また、がんが1cm~2cm、自覚症状がないときを見つけることが大切ということなので、検診が受けられるなら受けようと思いました。まずは、学んだことを家族や友達に伝えようと思っています。がんのことについて知っておくと、いざ自分や友達がなったときに冷静に行動できると思ったからです。そして、友達との関係を深くしようと思います。
- ◇ 私はこの授業で、お父さんがたばこを吸っていて、家に帰ったらお父さんにたばこをやめるようにと伝えた

いと思いました。これからは、家族を1人1人大切にしていきたいです。

- ◇ 今回の学習から、がんになる人は少ないと思ったけど、思ったより多くてびっくりした。誰かががんになったら励ましたり、不安をなくしたい。
- ◇ がんはとても恐ろしいものだと思っていただけだけど自覚症状が出ていなくてもしっかりがん検診に行くべきだと思った。身近な人の様子をしっかりと見て、病院に行ったら？などと声掛けをしたいと思います。

◎中学校（3校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
5月15日	同志社中学校	2	京都府立医科大学 教育センター 次世代研究者挑戦的プログラム 特任教授 曾和 義広
7月5日	八幡市立男山第二中学校	1	宇治徳洲会病院 放射線治療センター長 平岡 眞寛
7月12日	福知山市立桃映中学校	2	市立福知山市民病院 血液内科医長 西山 大地

<生徒の感想>

- ◇ 授業を受ける前から、がんは誰でもなる病気だと思っていたけど、まさか2人に1人ががんになるとは思ってなかったので驚きました。がんになる確率を少しでも下げるために、大人になってもお酒を飲んだりタバコを吸ったりせずに、健康的に生活していきたいと思いました。
- ◇ がんは風邪などと違って、いつの間にか治るような病気じゃないし、がんの種類は全身のいろいろなところにあることに気づいた。そして、がん細胞ができてから早期がんに至るまで、10~20年の月日が経つことが分かった。友達が体調不良になったら、もっと気にかけてあげようと思った。その人の人生の力になれるように。
- ◇ 2人に1人なることを知って、自分の友達ががんになる可能性があると思い、とても怖いと思いました。がんになりにくくするための動きを頑張ろうと思いました。たばこを吸っている友達には注意をしようと思います。他の人になりにくくするための行動を教えようと思いました。

◎高等学校（4校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
6月13日	京都府立北嵯峨高等学校	1	京都民医連中央病院 腫瘍内科医長 ファムゲンクイー
6月14日	日星高等学校	1	舞鶴医療センター 外科系診療部長 糸川 嘉樹
6月19日	京都府立南陽高等学校	1	京都山城総合医療センター 院長代理 山口 明浩
6月26日	京都府立西乙訓高等学校	1	京都済生会病院 がん看護専門看護師 山本 正彦

<生徒の感想>

- ◇ がんは早期発見が大事だと思った。お父さんが自営業で健康診断もここ最近受けてないとか言っていたので受けてもらおうと思った。
- ◇ がんは誰でもなるものだから検診をしっかりと早期発見できるようにしたいと思いました。がんは誰でもなるものだから検診してって言いたいと思いました。
- ◇ がんになる人は2人に1人だし、自分がなくても身近な人になる可能性があるので、支えあったりする必要があった。質疑応答の時に言っていた通り、がんのことについて触れるのではなく、いつも通り接するのも優しさだと思った。
- ◇ 改めてがんのお話を聞いて、とても怖い病気だなと思いました。それとともにこれからの自分の生活習慣についてもしっかりと見直そうと思いました。大人になってもたばこなどには気を付けたいと思います。自分や自分の大切な人の身体を守る上で、がん検診というのはやるべきことだと思いました。いくら自分が健康だと思ってもがんは突然発生します。なったとしても早期発見できるように、がん検診は大切なことだと思いました。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：[kentai@pref.kyoto.lg.jp](mailto:kentai@pref.kyoto.lg.jp)